

河内長野市地域公共交通網形成計画【概要版】

【平成27年度～平成29年度】

～ 乗って 出掛けて わがまち元気に！ ～

1. 河内長野市における公共交通をとりまく現状と課題、基本方針

分類	現状・問題点	課題
公共交通ネットワーク	・公共交通空白・不便地域が存在	まちづくりとの連携 ・既存の鉄道網や地形等を踏まえ、自動車に過度に依存しないまちの構造へ転換することが必要 ・公共交通の維持・発展のためには道路や住宅等の都市計画施策、観光や商業施設など、様々なまちづくり施策との連携が必要 公共交通利用者数の維持・増加による公共交通の発展 ・人口は減少するが、公共交通の利便性を確保するためには、利用者数の維持・増加が必要 ・市民や来訪者が利用しやすい公共交通を構築し、発展を図る 公共交通空白・不便地域の解消 ・地域が存続するためには、免許や自動車を持たない市民も安心して生活できる移動環境の確保が必要
人口	・総人口は平成12年をピークに減少 ・将来は人口減少しつつ高齢者人口が増加する見通し	
公共交通利用者数	・鉄道、バスとも平成3年をピークに減少傾向 ・モックルコミュニティバスは増加傾向となっていたが、近年減少傾向に転じている ・モックルコミュニティバスは、休日は平日に比べて利用者数が少ない ・日野・滝畑コミュニティバスは平成17年度以降減少し、平成22年度以降は微増と微減を繰り返している ・楠ヶ丘地域の乗合タクシーは前年同月に比べて増加傾向	
交通手段	・交通手段分担率は、自動車が増加し、鉄道、バス、徒歩が減少傾向	
市民意向	・バスの改善点は、「一日の便数」が最も多くなっており、次いで「運賃」「運行時間帯」「自宅からバス停までの距離」「運行ルート」の順に多い	

基本方針：持続発展できる公共交通を確保する

- 少子高齢化等の動向を踏まえた、誰もが利用しやすい公共交通を目指した利用促進
- 関係者（住民・交通事業者・行政など）との協働による地域主体の公共交通等の確保
- 地域別まちづくりと一体化した公共交通のあり方の検討

公共交通の観点から、施策実施により目指す“元気なまち”のイメージ

- 公共交通で移動しやすい都市的魅力がある”まち”
- 日常の移動が確保された安心できる”まち”
- 交流が活発で活気のある”まち”

【展開スケジュール】

展開1	①公共交通に対する市民意識の向上とPR等の利用促進施策（各段階を通じて実施） ②市民主体の取り組みの仕組みづくりと試行的な取り組み（交通空白地域などで実施）
展開2	展開1での成果を踏まえ、他地域への展開を図る
展開3	展開1・2を踏まえた市民意識の高まりにより、協働による持続可能な公共交通ネットワークの確立

【基本とする交通体系】

本市では、都市核に公共交通が集積している交通体系の維持・充実を図り、それぞれの都市核が交通結節点として鉄道・バスなどへ円滑に乗り継ぐことができる交通体系を目指します。

2. 形成計画の区域と期間

【対象区域】

河内長野市全域

【期間】

市の計画期	第1期	第2期	第3期		
	策定計画	河内長野市地域公共交通総合連携計画		河内長野市地域公共交通網形成計画	
計画期間	平成21～23年度	平成24～26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度

3. 形成計画の目標

- 将来のまちづくりを支えるための公共交通サービスの提供
「元気なまち」をつくるには、誰もが安心して生活できる移動環境を構築し、外出の機会を増やすことが必要です。そのため、利用促進、高齢者の移動支援、世代間交流につながる公共交通サービスの提供を目指します。

● 公共交通サービス水準の向上

住民が主体的に取り組む公共交通空白・不便地域において、最適な運行形態等を協議して試行運行などを行い、公共交通空白・不便地域の解消を目指します。
公共交通サービス水準向上のため、公共交通空白・不便地域を右記のように見直すこととしました。

表 公共交通空白・不便地域の変更内容

項目	第1期、第2期における設定 〔河内長野市地域公共交通総合連携計画〕	第3期における設定 〔河内長野市地域公共交通網形成計画〕
公共交通空白地域	駅から1,000m、バス停から500m以上のエリア	駅から800m、バス停から400m以上のエリア
公共交通不便地域	駅から500m、バス停から500m以上のエリア	駅から400m、バス停から400m以上のエリア

**目標値：市民の公共交通サービスへの不満足度を平成26年度の43.7%から平成29年度40%とする
平成25年度のバス年間利用者数を100とした場合に平成29年度100とする（現状維持）**

4. 事業の概要及び事業の実施主体に関する事項

目指すまちのイメージ	目標	観点	対象	具体的な取り組み
元気なまち 公共交通で移動しやすい都市的魅力があるまち 日常の移動が確保された安心できるまち 交流が活発で活気のあるまち	将来のまちづくりを支えるための公共交通サービスの提供	利用促進（サービス改善） 高齢者支援 世代間交流の創出 公共交通サービス水準の向上 公共交通空白・不便地域の解消	公共交通全般	(a) バスマップの作成・配布 (b) モデル的な取り組みの他地域への啓発 (c) 公共交通イベントの実施 new! (d) 観光資源と路線バスを活用した取り組みの実施 (e) 商業施設等との連携 (f) 周辺市との連携による効率的、効果的なバス路線構築の可能性検討 new! (g) ニーズに即した改善策の検討
			路線バス	(a) ICカードの普及促進 new! (b) 乗継運賃値下げの検討 new! (c) 千代田線における上限200円運賃の試行運行継続と、他路線への展開を検討 (d) バスロケーションシステム導入の検討 new! (e) 携帯電話等に対応した時刻表、ルート図などの提供を検討 new! (f) 深夜バスの運行を検討 (g) 路線バスの運行を検討
			モックルコミュニティバス	(a) 車内でのPR (b) 市役所、バス停周辺施設、店舗等でのPR (c) 上限200円運賃の本格運行への移行を検討
			日野・滝畑コミュニティバス	沿線観光施設、商業施設等との連携による割引特典等を活用した利用促進
			公共交通全般	ノンステップバス導入の推進
			路線バス	フリー乗降導入指針の作成及びフリー乗降の展開
			モックルコミュニティバス	同伴者割引拡大の検討
			地域に合った公共交通の検討	(a) 地域主体の公共交通の運行継続条件の検討 new! (b) 地域に合った公共交通の試行運行を検討

5. 形成計画の目標達成状況の評価

目標	評価指標	現況値	目標値
目標1: 将来のまちづくりを支えるための公共交通サービスの提供	公共交通サービスへの不満足度	43.7%	40%
目標2: 公共交通サービス水準の向上	バス年間利用者数	100	100

※現況値の不満足度は平成26年度河内長野市民意識調査結果、バス年間利用者数は平成25年度を100とした場合の数値

